松葉・相内の裸参り

無火災願い参道を駆ける

2月15日、桧木内字松葉地区で裸参りが行われました。

当日は、地域の若者や消防署員12人が、ふんどし姿で桧木内川で身を清めた後、松葉の金比羅神社を目指しました。沿道の声援を受けながら、かけ声と共に参道を駆け上がった一行は、ご神木に腰みのとわらじを巻き付け無火災を祈願しました。

明治 10 年、地域で起きた 2 度の火災。災難から集落を守るため四国の金比羅宮に無火災を祈願し、帰村後、地域の中央にある旭山に祠堂を建立して以来、無火災を祈願し裸参りが行われています。

火振りかまくら

願いを込めた炎の軌跡

伝統行事火振りかまくらは、2月13日に桜並木駐車場で、14日は角館町の各所で行われました。

火を付けた炭俵を振り回し、田んぼの厄を払うとともに、家族の無病息災や家内安全など、一年の無事を祈願します。

会場では願いを込めたきれいな炎の輪があちらこちらで作られました。

およそ 400 年の歴史を持つ旧暦の小正月行事の一つ。使用される炭俵に 1 ㍍程の縄が結ばれていて、その縄で俵を振り回します。上手に振るにはコツがいりますが、会場では観光客もコツを教わりながら挑戦していました。

上桧木内の紙風船上げ

夜空に浮かぶ巨大紙風船

2月10日、上桧木内の紙風船上げが西木町紙風船広場で行われ、大勢の人で賑わいました。

今年も家内安全、五穀豊穣など様々な願いが込められ、次々と空に舞い上がった約100個の紙風船の明かりを、大勢の観客がいつまでも見守っていました。

和紙を貼り合わせ作られた紙風船は約 6 ㍍にもなり、武者絵や美人画などが描かれています。揚力源となるタンポ（石油を染み込ませた布玉）に火が灯され打ち上げられます。

『上野駅の記憶』

仙北市長　門脇　光浩

卒業シーズンです。子ども達はそれぞれに新たな一歩を踏み出します。親元を離れ、都会で一人暮らしを始める人もいるでしょう。おとな達は新年度に向かって準備作業に忙しい時期です。どうか皆さんの未来に、たくさんの良い出来事がありますように…。

ところで先月、吹雪の角館を後にして、仙北市国家戦略特区の会議で内閣府を訪ねました。特区指定は大詰めと言った印象です。何とか選ばれて、大胆なまちづくりを国と共に進めたいと思います。

さて上京中、都内は雲一つない冬晴れでした。もちろん雪などどこにも見当たりません。正直「不公平だなあ」と思いました。それに東京駅は八重洲口だの丸の内口だの、人、人、人で溢れています。山手線も超満員で、「ああ、このうちの何人でも秋田内陸線に乗ってくれたら」と、ため息が出ます。

少しご年配の皆さんでしたら、東京の玄関口は、東京駅ではなく上野駅でした。集団就職で降りた駅、出稼ぎ先からお土産を両手に抱えて帰る駅、いえ、帰ることができなくて、列車に着いた雪を見に行く駅、故郷の言葉を聞きたいばかりに通う駅…。上野駅は東北人の心の拠り所だったのです。その情景は、昭和の歌謡史に多くの名曲を残しています。

自分にも、幾つか忘れることができない上野駅の記憶があります。出稼ぎに出ていた両親と食べた立ち食いソバ、列車から物産展の荷物を汗だくで降ろしてくれた見ず知らずのお父さん、あきた美人100人キャンペーンで何度も駆け込んだ駅長室、今でも友人との待ち合わせ場所は、決まって正面改札を出た左奥ロッカー前です。

そんなわけで、最近の自分は上野駅を起点に動いています。特に交渉ごとの場合など、上野駅に降り立つと「東京もんに負けてたまるか」の気合が入ります。各省庁に向かう東京メトロ日比谷線が乗り入れしていたり、東京駅ほど人が多くなくて、あか抜けしていない分だけ気が楽なことも魅力です。上野駅は今も東北人をそっと支えてくれる存在です。

この春から東京暮らしの若い皆さん、心に元気がなくなったら、故郷の匂いがする上野駅を訪ねてみてください。

かくのだてフィルムコミッション

ロケーションだより

Kakunodate Film Commission

1月28日（水）JFCスキルアップ研修がBIZ新宿多目的ホール（東京都新宿区）で開催されました。

第1部は、トークセッション「先進FCのノウハウを盗む」でした。北九州フィルム・コミッション日比谷健司氏、神戸フィルムオフィス三宅千佳氏、熊本・九州コンテンツ戦略機構小山真一氏を講師に迎え、ディスカッション形式で行われました。講師から、「現場で撮影したものの使用は、初めに取り決める」「撮影する側と撮影される側がお互いを利用させるだけではなく、一緒にヒットさせる」等が話されました。かくのだてFCも戦略的に活動を進めていく必要性を感じました。

第2部は、分科会「似ている地域の抱える問題」でした。かくのだてFCは、地方中心都市・地方中小都市の分科会で意見交換しました。他のFCからの「他の場所の代替として撮影されることが多く、地域名をアピールできない」という声を聞き、角館や田沢湖という名前はひとつの「ブランド」になっているのですが、撮影する側に中身をもっと知ってもらう努力が大切だと感じました。

今回のスキルアップ研修を通じて、JFCの研修体制が整ってきて、全国的にFCが力をつけてきている感じを受けました。かくのだてFCも気を引き締めて、活動を行っていきたいと思います。（会長　坂本 洋）

新宿で行われたJFC（ジャパンフィルムコミッション）スキルアップ研修

※FC＝フィルムコミッションの略

かくのだてフィルムコミッション
（仙北市観光課内）
☎43-3352
http://kakunodate-fc.jp/